
口内炎に苦しむ男

五円玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

口内炎に苦しむ男

【Nコード】

N6783Z

【作者名】

五円玉

【あらすじ】

冬の短編祭り第1弾。口内に口内炎が出来た会社員の悲しい運命を書いた、超ショートコメディー！

(前書き)

冬の短編祭り第1弾！

今回は口内炎に苦しむ会社員のある意味帰趨な運命を書きました。

では！

「鈴木くん、これから一杯どうかね」

「……え？」

僕の名前は鈴木。

25歳、独身、魔法使いまであと5年。

僕は普通の会社員として、この「猿山商事」に勤めている。

そして会社終わりの今、僕は部長から飲みに誘われた。

「いや、一杯どうかと。近くに安い居酒屋が新しく出来ただろう？
どうかね？」

部長（推定48歳、薄らハゲ）は会社の裏手にある大手系列の居酒屋へ行きたいようだ。

「あ、はい。僕でよかったです」

とりあえず相手は部長（最近離婚調停中らしい）だ。
飲みの誘いを断れないのが上下関係の性ってヤツだ。

「そうかそうか、じゃあ早速行くつか！」

部長（座右の銘は一期一会）は、いそいそと身支度を整える。

その顔は笑顔だ。

「はい……」

僕も作り笑いで部長（最近口トで3万も摩ったらしい）の笑顔に答える。

はあ……。

どうしよ。

僕、今口内炎出来てるんだよな……。

居酒屋「飲んだくれ」

なんとも言えぬネーミングセンスだよこの店。

そんな店に僕と部長（最近娘さんが結婚したそうな）は入店。

窓際のテーブル席に通された。

「とりあえず生二杯！」

僕の口内炎の事を多分知らないであろう部長（この前自転車が盗難

にあっていた)は生ビールを勝手に注文。

ありがた迷惑。

「鈴木くん、君は何食べる?」

「あ、じゃあとりあえず唐揚げと……」

もちろんレモン抜きで。

「唐揚げね。おい店員さん、唐揚げ1つ。あ、レモン多めで!」

……はあ?

「鈴木くんはレモン大丈夫だね。私、酸っぱいモノが好きで」

部長(薄らハゲ)はニヤニヤしながら薄い頭皮をポリポリ。

「ああ……ね、レモンですね。だ、大丈夫です……」

早くも僕の口内炎が疼き出している。

「あとは……枝豆と手羽先。味濃いめで」

「……………」

口内炎が痛い。

「……………どうしたんだい鈴木くん? 何かあったのかい?」

気付くと注文を終えた部長（昔はパンチパーマだった説あり）が僕の顔をまじまじと見ていた。

「あ、いえ、別に何でもありません」

いや正直何でもない訳ではないんだけど。

「そうかい？ ならいいんだが……」

そう言うと部長（幸薄そうな面構え）は視線を店のメニュー表へ。

「ほほう……ここ、結構お刺身安いね」

「そうですか……」

「よし、追加注文するか！」

「え？」

「すみません、天ぷらセットーっ！」

刺身関係ねえー！！

そしてしばらくして、料理が運ばれてきた。

「うぐあっ」

ぎゃあああ、口内炎にビール染みるっ！

「さ、鈴木くん食べた食べた！」

そう言って天ぷらに大量の塩を投下する部長（愛用のシャー芯は0.5ミリ）を殴り殺したい。

しかし、僕はその殺人衝動をぐっところえ、ビールをひと口。

ひゃあっ！

「あ、鈴木くんは塩ダメだっけ？」

「え？」

部長（尊敬する人物は板垣退助らしい）は何かを悟ったらしく、突然塩を掛けるのを止めた。

え、まさかこの人エスパー！？

「鈴木くんは塩じゃなくて醤油って顔してるもんな！」

すると部長（よく見るテレビはゴルフ中継）は醤油を天ぷらにドバドバ。

「……は？」

何だこのオヤジ？
殺されたいのか？

「ささ、鈴木くん食べなさい！」

そう言っつて部長（高校時代のあだ名はポコチンだったらしい）は、僕の皿に塩と醤油たっぷりの茄子の天ぷらを置いた。

口内炎が疼く。

「ほらほら、遠慮するな！」

いや遠慮はしなくても拒否はしたい。

「はぁ……じゃ、じゃあ頂きます……」

相手は一応でも部長（未だに携帯の機能を使いこなせていない）だ。
ちゃんと食べないと……

「……………」

僕は口を開け、なるべく口内炎に当たらないよう天ぷらを投入。

そして咀嚼……

モリッ

「ふんぐっ！！」

ぎゃあああっ！！

しまったあ！

口内炎嚙んだっ！！

「ど、どうしたのかね鈴木くん！？」

僕の半ば悲鳴じみた声に部長（口臭が腐った鯖の匂い）が反応。

なんか凄い顔でこっち見てくる。

「い、いえ。なんれもないねす……ぎゃあ！」

そして痛みに耐えながら僕が喋った瞬間、口内の天ぶらが口内炎に接触。

ダメージ倍加。

「なんだ、もしかして喉に詰まったのかい？ だったら飲み物を飲みなさい！」

部長（体臭が腐った虫の死骸の匂い）は何を勘違いしたのか、僕の

口にビールのジョッキをぐいっと……

そして悲惨な口内に投入されるビール……

結果……

「ぐふあっ!!」

僕は口内の全てのモノを部長（誕生日は12月24日）の顔面めがけて吹き出していた。

いや決してわざとではない。

たまたま目の前に部長（血液型B）の顔面があっただけで……。

「はあはあ……っ！ぶ、部長……?」

僕の目の前には、なんか悲惨な部長（眉毛めちやくちや太い）の顔。

「……鈴木くん」

「は、はいっ?」

「……口内炎でも、出来ているのかい?」

「えっ……あ、はい……」

「……そうかい」

「……はい」

部長（本名山田一太郎）は、柔らかな顔をしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6783z/>

口内炎に苦しむ男

2011年12月23日01時49分発行